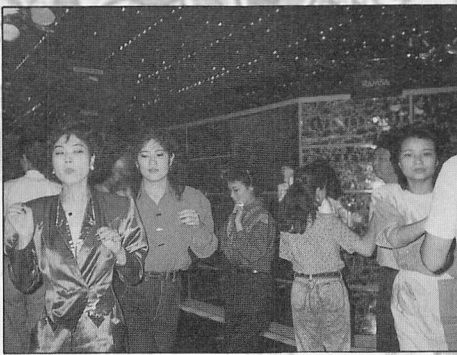


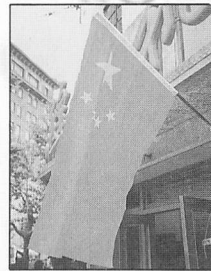
高村宗治の京都ニユーズ② 上海燃ゆ。―資本主義からみた、アセアン・コスモポリスの近況。



「革命」の最中も上流子女たちはディスコで資本主義的快楽に酔っていた（錦江飯店前のディスコ・夢で）



「反对軍管！ 軍管非法！」の文字も血の色である。



解放40年を祝うはずの国旗も血の色に思えた。

28歳の毛沢東が教師として訪れたのが上海の目抜き通り、南京路の南にある淮海路である。

29歳になったばかりの私にとっても、そのことはおそらく忘れ得ぬエピソードになるだろう。取材で訪れた上海解放40周年記念日（5月29日）に居合わせることとなったからである。1945年8月、日本の全面降伏とともに激化した国民党と共産党の内戦――。日本軍の武装解除を行使し、北京、天津、上海といった主要都市をまず制したのは国民党の蒋介石だった。アメリカの強力な軍事援助、経済援助に裏づけられた430万人の軍隊は20万共産党軍を圧倒していた。誰もが疑わなかった国民党軍の勝利は、2年間でどころも崩れさった。

共産党の解放区における土地改革が地主階級を保護し、反米運動を圧殺する国民党を追いやったのである。結果、南京から上海に迫る共産党軍に迫られるように、蒋介石は金塊と50万の部隊とともに台湾へ敗走した。そう、中華人民共和国誕生、そして中華民国――台湾の誕生である。

4月の胡耀邦総書記急死に始まる中国民主化運動のさなかと見える5月末、私たちはその上海へ旅した。1920年代から30年代の上海黄金時代はそこになかった。つねに革命の都だった上海の面影もありはしなかった。むしろ、英国領香港に倣うかのように資本主義へと疾走する都市の姿が私たちをつつまこもうとした。私たちの宿舎は市街地から車で15分ほど西へいった閑静な高級住宅街・興国路の一角・興国賓館である。

かつて清王朝の、そして戦後は中国共産党のゲストハウスとされたその重厚な外壁の内側は、つかの間のヨーロッパであった。毛沢東の夏の居所となった館があり、フランス、英国の領事の旧別邸があり、それらは今、（主に日本人向けの）高級ホテルに用いられている。私の滞在中は鄧小平率いる強硬派の優勢が伝えられていた。趙紫陽失脚が噂され、人々は欧米から呼び戻された全人代・万里氏の隠健派支持に望みをつないだ。万里氏上海入りの宿舎もまた、この興国賓館ではなかったかと言われる。門番が部外者をシャットアウトするこの敷地内では、車で目的の館まで行けば、それが誰なのか、知るよしもない。そしてかの鄧小平の静養先が上海であることが後日明らかになったこともまた、私の興味をかきたてるのだ。

結局、上海では何ごとも起こらなかった。しいていえば、天安門広場流血事件の直前であり、学生と労働者のデモが人民広場とバンドの市政府建物前にくり出したことだ。私たちは人々に囲まれ、日本の平和さと革命を擬似体験したにとどまった。

この時、「革命いまだならず」中国革命の父にしてモダンボーイ、そして世界を飛び回ったコスモポリタン、孫文の言葉が真実味を帯びて私達に覆いかぶさったのだった。そして、京都の鄧小平を決める京都市長選はいよいよ来月8月である。しかしながら「京都民主化」へのうねりもさざ波も例によって、ない。

PROFILE

高村宗治

MUNEHARU TAKAMURA [コンセプター、コピーライター・1960年生まれ]
氏のコピーには視点がある。しかし、コラムには「毒」がある。「1行1,000万円をめざすから」とコラムを避けてはいるが「京都批判」になると人が変わる。自称「読むブワゾン」の京都ざらいい人はもしかして京都再生のキーマンなのかもしれない。

何にでもアイロンプリントできる
新しいステッカー
「マーキングフィルム」を作ります。
使いみちはあなたの
アイデア次第です。



〒620 福知山市南栄町
TEL.0773・24・0285 FAX.0773・23・2687

CLUB FAME COLUMN 1989.

HAPHAZARD REMARKS

FROM KYOTO JAPAN

the Bargain sale.

30~50% Less

7/13 (THU) ~ 18 (THU)

イタリアン・ライン メンズ&レディス

Jag

京都市北区上賀茂桜井町103-3
メゾンナガジマビル1F
phone/075・722・3761
OPEN/11:00AM~8:00PM
定休日/毎週水曜日